



平成 27 年 6 月 5 日

各 位

会 社 名 北越紀州製紙株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 岸本 哲夫
(コード番号 : 3865 東証 1 部)
問合せ先 執行役員経営管理部長 真島 馨
電 話 03-3245-4500

(訂正)「平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」
の一部訂正について

当社は、平成 27 年 5 月 28 日付適時開示「平成 27 年 3 月期決算短信 (連結) の発表期日並びに過年度決算数値の訂正による影響の見込み額等について」にてお知らせしたとおり、過年度決算短信の訂正作業を進めてまいりました。

この度、平成 23 年 2 月 9 日付「平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の訂正作業が完了しましたので、訂正内容についてお知らせいたします。

なお、訂正箇所を明確にするため、訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には__を付して表示しております。

以 上

(訂正後)

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成23年2月9日

上場会社名 北越紀州製紙株式会社
コード番号 3865

上場取引所 東

URL <http://www.hokuetsu-kishu.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO

(氏名) 岸本 哲夫

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長

(氏名) 堀川 淳一

TEL 03-3245-4500

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	163,252	17.1	6,644	△13.2	7,781	9.5	4,607	5.8
22年3月期第3四半期	139,442	△2.8	7,654	23.1	7,104	24.6	4,355	46.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	22.15	—
22年3月期第3四半期	20.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	333,055	137,051	40.9	666.41
22年3月期	340,944	138,172	40.3	658.61

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 136,352百万円 22年3月期 137,402百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
23年3月期	—	6.00	—		
23年3月期(予想)				6.00	12.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	220,000	13.4	8,500	△14.0	10,000	6.0	6,000	△15.6	28.95

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期30	209,263,814株	22年3月期	209,263,814株
② 期末自己株式数	23年3月期30	4,654,893株	22年3月期	639,057株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期30	208,061,243株	22年3月期30	211,134,343株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信（添付資料）2ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 四半期連結貸借対照表関係	<u>9</u>
(6) 四半期連結損益計算書関係	<u>9</u>
(7) セグメント情報	<u>10</u>
(8) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	<u>11</u>

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策の効果や外需に牽引され緩やかに回復しつつあるものの、雇用環境の改善が見られず、個人消費も伸び悩んだことから、景気は停滞局面が続いております。紙パルプ業界におきましては、本格的な景気回復に至らないことから、紙・板紙の出荷数量は低調に推移しております。

当社グループにおきましては、国際競争力の強化を経営の基本方針として製品輸出の強化に取り組んできた結果、大幅な増販ができ、また平成21年10月より、当社グループに紀州製紙株式会社及びその子会社が加わったこともあり、当第3四半期連結累計期間の売上高は163,252百万円（前年同四半期比17.1%増）となりました。

損益面においては、チップ・古紙など原燃料価格の上昇があったものの、当社グループ全体の各種コストダウン効果や、紀州製紙株式会社及びその子会社の利益が加わったこと、負ののれんの償却等の影響により、当第3四半期連結累計期間の経常利益は前年同四半期比9.5%増の7,781百万円となり、四半期純利益は前年同四半期比5.8%増の4,607百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前連結会計年度末に比べて7,888百万円減少し、333,055百万円となりました。これは、主として減価償却等により有形固定資産が11,875百万円減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて6,766百万円減少し、196,004百万円となりました。これは、主として借入金等の有利子負債が3,683百万円減少し、132,957百万円となったことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて1,121百万円減少し、137,051百万円となりました。これは、主として利益剰余金が2,097百万円増加した一方で、自己株式の取得等により1,812百万円減少したこと及び保有株式の株価下落によりその他有価証券評価差額金が1,259百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年11月10日発表の通期の業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 固定資産の減価償却費の算定方法

固定資産の年度中の取得、売却または除却等の見積りを考慮した予算に基づく年間償却予定額を期間按分する方法によっております。

なお、定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関して、四半期連結財務諸表提出会社及び一部の連結子会社においては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

会計基準等の改正に伴う変更

① 「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用しております。この適用による損益への影響はありません。

② 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより営業利益、経常利益はそれぞれ13百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は402百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は1,504百万円であります。

3. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,317	11,749
受取手形及び売掛金	64,879	63,261
商品及び製品	<u>12,792</u>	<u>11,789</u>
仕掛品	2,149	1,761
原材料及び貯蔵品	10,462	11,182
その他	<u>4,075</u>	<u>4,660</u>
貸倒引当金	<u>△48</u>	<u>△46</u>
流動資産合計	<u>110,627</u>	<u>104,359</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	71,497	69,326
減価償却累計額	<u>△36,370</u>	<u>△33,323</u>
建物及び構築物(純額)	<u>35,126</u>	<u>36,002</u>
機械、運搬具及び工具器具備品	372,992	369,171
減価償却累計額	<u>△249,958</u>	<u>△234,443</u>
機械、運搬具及び工具器具備品(純額)	<u>123,033</u>	<u>134,727</u>
その他(純額)	<u>29,110</u>	<u>28,415</u>
有形固定資産合計	<u>187,270</u>	<u>199,146</u>
無形固定資産	988	951
投資その他の資産		
その他	<u>36,202</u>	<u>38,431</u>
貸倒引当金	<u>△2,033</u>	<u>△1,944</u>
投資その他の資産合計	<u>34,168</u>	<u>36,487</u>
固定資産合計	<u>222,428</u>	<u>236,584</u>
資産合計	<u>333,055</u>	<u>340,944</u>

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,679	22,470
短期借入金	<u>67,485</u>	<u>69,667</u>
コマーシャル・ペーパー	—	3,000
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	423	1,557
引当金	1,326	2,745
その他	11,981	13,930
流動負債合計	<u>115,896</u>	<u>113,370</u>
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	31,906	39,741
退職給付引当金	12,575	10,658
その他の引当金	824	1,823
負ののれん	6,666	8,004
資産除去債務	1,511	—
その他	6,622	9,173
固定負債合計	<u>80,107</u>	<u>89,400</u>
負債合計	<u>196,004</u>	<u>202,771</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	42,020	42,020
資本剰余金	45,435	45,435
利益剰余金	<u>51,560</u>	<u>49,462</u>
自己株式	<u>△2,143</u>	<u>△330</u>
株主資本合計	<u>136,873</u>	<u>136,588</u>
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△367	891
繰延ヘッジ損益	<u>△152</u>	<u>△77</u>
評価・換算差額等合計	<u>△520</u>	<u>814</u>
少数株主持分	698	769
純資産合計	<u>137,051</u>	<u>138,172</u>
負債純資産合計	<u>333,055</u>	<u>340,944</u>

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	139,442	163,252
売上原価	112,712	133,431
売上総利益	26,729	29,820
販売費及び一般管理費	19,075	23,176
営業利益	7,654	6,644
営業外収益		
受取利息	27	8
受取配当金	565	586
負ののれん償却額	467	1,342
助成金収入	—	972
その他	762	882
営業外収益合計	1,822	3,791
営業外費用		
支払利息	1,275	1,136
その他	1,097	1,518
営業外費用合計	2,372	2,654
経常利益	7,104	7,781
特別利益		
固定資産売却益	11	15
投資有価証券売却益	9	—
貸倒引当金戻入額	4	5
事業構造改善引当金戻入額	92	—
特別利益合計	118	21
特別損失		
固定資産除売却損	277	477
減損損失	84	222
投資有価証券評価損	614	187
関係会社整理損	224	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	388
その他	—	27
特別損失合計	1,201	1,303
税金等調整前四半期純利益	6,020	6,499
法人税、住民税及び事業税	2,174	1,785
法人税等調整額	△537	157
法人税等合計	1,636	1,942
少数株主損益調整前四半期純利益	—	4,557
少数株主利益又は少数株主損失(△)	28	△50
四半期純利益	4,355	4,607

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,020	6,499
減価償却費	15,629	16,858
減損損失	84	222
負ののれん償却額	△467	△1,342
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	254	173
受取利息及び受取配当金	△592	△594
投資有価証券評価損益 (△は益)	614	187
支払利息	1,275	1,136
固定資産除売却損益 (△は益)	266	461
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	388
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,591	△1,596
たな卸資産の増減額 (△は増加)	3,813	△667
未収消費税等の増減額 (△は増加)	2,686	139
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,308	2,063
未払消費税等の増減額 (△は減少)	1,456	△2,175
その他	△241	△1,139
小計	26,899	20,614
利息及び配当金の受取額	604	607
利息の支払額	△1,298	△1,120
法人税等の支払額	△3,080	△2,474
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,124	17,626
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△77	△18
定期預金の払戻による収入	45	85
投資有価証券の取得による支出	△233	△12
投資有価証券の売却及び償還による収入	999	2
有形固定資産の取得による支出	△5,376	△5,505
有形固定資産の売却による収入	88	34
貸付けによる支出	△5,059	△20
貸付金の回収による収入	310	137
その他	332	487
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,970	△4,809

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	6,608	△1,636
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	13,000	△3,000
長期借入れによる収入	200	—
長期借入金の返済による支出	△8,460	△8,379
社債の発行による収入	—	10,000
社債の償還による支出	△10,000	—
配当金の支払額	△2,553	△2,513
少数株主への配当金の支払額	△12	△8
自己株式の取得による支出	△8,829	△1,810
その他	△298	△695
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>△10,346</u>	<u>△8,043</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13	△158
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	<u>3,794</u>	<u>4,614</u>
現金及び現金同等物の期首残高	15,204	11,668
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,044	—
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	20
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u>20,043</u>	<u>16,302</u>

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 四半期連結貸借対照表関係

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
<p>1 不正行為に関連して発生したものが、以下のとおり含まれております。</p> <p>固定資産</p> <p>投資その他の資産</p> <p>その他</p> <p>長期未収入金 1,840百万円</p> <p>貸倒引当金 <u>△1,840</u></p>	<p>1 不正行為に関連して発生したものが、以下のとおり含まれております。</p> <p>固定資産</p> <p>投資その他の資産</p> <p>その他</p> <p>長期未収入金 1,747百万円</p> <p>貸倒引当金 <u>△1,747</u></p>

(6) 四半期連結損益計算書関係

前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
<p>1 不正行為に関連して発生した貸倒引当金の繰入額が、以下のとおり含まれております。</p> <p>営業外費用</p> <p>その他 82百万円</p>	<p>1 不正行為に関連して発生した貸倒引当金の繰入額が、以下のとおり含まれております。</p> <p>営業外費用</p> <p>その他 93百万円</p>

(7) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

(単位：百万円)

	パルプ・紙 製造事業	紙加工品 製造事業	その他の 事業	計	消 去 又は全社	連 結
売 上 高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	120,609	14,573	4,259	139,442	—	139,442
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,183	83	16,448	17,715	(17,715)	—
計	121,792	14,657	20,708	157,158	(17,715)	139,442
営 業 利 益	6,373	335	392	7,101	553	7,654

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品の製造方法の類似性等を考慮して区分しております。

2. 各事業の主な事業

パルプ・紙製造事業	・・・・・・・・	パルプ・紙の製造販売
紙加工品製造事業	・・・・・・・・	紙加工品の製造販売
その他の事業	・・・・・・・・	木材事業、建設業、機械製造・販売・営繕、パルプ等諸資材の 輸入・販売、不動産売買、運送・倉庫業、古紙卸業、サービス、 その他

3. 当社は、平成21年10月1日付けで紀州製紙株式会社との株式交換により、紀州製紙株式会社及びその子会社を連結子会社といたしました。これにより、事業の種類別セグメント情報に係るセグメント別の資産の金額は、前連結会計年度末に比べて、主としてパルプ・紙製造事業及び紙加工品製造事業において増加しております。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、当社及び連結子会社ごとに業績評価等を行っているため、これを事業セグメントの構成単位としております。また各事業セグメントの経済的特徴、製品の製造方法及び販売市場の類似性等を考慮したうえでセグメントを集約しており、当社は「紙パルプ事業」、「パッケージング・紙加工事業」の2つを報告セグメントとしております。

「紙パルプ事業」セグメントは、紙・パルプ製品の製造販売を行っております。「パッケージング・紙加工事業」は、紙器・液体容器等の製造販売、ビジネスフォーム等の各種印刷製品の製造販売、DPS(データプロセッシングサービス)事業等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙パルプ 事業	パッケー ジング・ 紙加工事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	139,476	16,571	156,048	7,204	163,252	-	163,252
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,446	242	1,688	18,264	19,952	△ 19,952	-
計	140,922	16,813	157,736	<u>25,468</u>	183,205	△ 19,952	163,252
セグメント利益	5,127	420	5,548	<u>467</u>	<u>6,015</u>	628	6,644

(注) 1 「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、木材事業、建設業、諸資材の販売、不動産売買、運送・倉庫業、古紙卸業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額628百万円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(8) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(訂正前)

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成23年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 北越紀州製紙株式会社

コード番号 3865

URL <http://www.hokuetsu-kishu.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO

(氏名) 岸本 哲夫

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長

(氏名) 堀川 淳一

TEL 03-3245-4500

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	163,252	17.1	6,644	△13.2	7,888	9.5	4,714	5.8
22年3月期第3四半期	139,442	△2.8	7,654	23.0	7,205	24.2	4,456	44.8

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	22.66	—
22年3月期第3四半期	21.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	333,099	138,974	41.5	675.81
22年3月期	340,970	139,989	40.8	667.32

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 138,275百万円 22年3月期 139,219百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
23年3月期	—	6.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	220,000	13.4	8,500	△14.1	10,000	4.5	6,000	△17.1	28.95

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期30	209,263,814株	22年3月期	209,263,814株
② 期末自己株式数	23年3月期30	4,654,893株	22年3月期	639,057株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期30	208,061,243株	22年3月期30	211,134,343株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信（添付資料）2ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策の効果や外需に牽引され緩やかに回復しつつあるものの、雇用環境の改善が見られず、個人消費も伸び悩んだことから、景気は停滞局面が続いております。紙パルプ業界におきましては、本格的な景気回復に至らないことから、紙・板紙の出荷数量は低調に推移しております。

当社グループにおきましては、国際競争力の強化を経営の基本方針として製品輸出の強化に取り組んできた結果、大幅な増販ができ、また平成21年10月より、当社グループに紀州製紙株式会社及びその子会社が加わったこともあり、当第3四半期連結累計期間の売上高は163,252百万円（前年同四半期比17.1%増）となりました。

損益面においては、チップ・古紙など原燃料価格の上昇があったものの、当社グループ全体の各種コストダウン効果や、紀州製紙株式会社及びその子会社の利益が加わったこと、負ののれんの償却等の影響により、当第3四半期連結累計期間の経常利益は前年同四半期比9.5%増の7,888百万円となり、四半期純利益は前年同四半期比5.8%増の4,714百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前連結会計年度末に比べて7,871百万円減少し、333,099百万円となりました。これは、主として減価償却等により有形固定資産が11,875百万円減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて6,856百万円減少し、194,124百万円となりました。これは、主として借入金等の有利子負債が3,773百万円減少し、131,077百万円となったことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて1,014百万円減少し、138,974百万円となりました。これは、主として利益剰余金が2,204百万円増加した一方で、自己株式の取得等により1,812百万円減少したこと及び保有株式の株価下落によりその他有価証券評価差額金が1,259百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年11月10日発表の通期の業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 固定資産の減価償却費の算定方法

固定資産の年度中の取得、売却または除却等の見積りを考慮した予算に基づく年間償却予定額を期間按分する方法によっております。

なお、定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関して、四半期連結財務諸表提出会社及び一部の連結子会社においては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

会計基準等の改正に伴う変更

① 「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用しております。この適用による損益への影響はありません。

② 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより営業利益、経常利益はそれぞれ13百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は402百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は1,504百万円であります。

3. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,317	11,749
受取手形及び売掛金	64,879	63,261
商品及び製品	<u>12,820</u>	<u>11,801</u>
仕掛品	2,149	1,761
原材料及び貯蔵品	10,462	11,182
その他	<u>4,084</u>	<u>4,669</u>
貸倒引当金	△48	△46
流動資産合計	<u>110,665</u>	<u>104,380</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	71,497	69,326
減価償却累計額	△36,370	△33,323
建物及び構築物(純額)	<u>35,126</u>	<u>36,002</u>
機械、運搬具及び工具器具備品	372,992	369,171
減価償却累計額	△249,958	△234,443
機械、運搬具及び工具器具備品(純額)	<u>123,033</u>	<u>134,727</u>
その他(純額)	29,110	28,415
有形固定資産合計	<u>187,270</u>	<u>199,146</u>
無形固定資産	988	951
投資その他の資産	<u>34,174</u>	<u>36,492</u>
固定資産合計	<u>222,433</u>	<u>236,590</u>
資産合計	<u>333,099</u>	<u>340,970</u>

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,679	22,470
短期借入金	<u>65,605</u>	<u>67,877</u>
コマーシャル・ペーパー	—	3,000
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	423	1,557
引当金	1,326	2,745
その他	11,981	13,930
流動負債合計	<u>114,016</u>	<u>111,580</u>
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	31,906	39,741
退職給付引当金	12,575	10,658
その他の引当金	824	1,823
負ののれん	6,666	8,004
資産除去債務	1,511	—
その他	6,622	9,173
固定負債合計	<u>80,107</u>	<u>89,400</u>
負債合計	<u>194,124</u>	<u>200,981</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	42,020	42,020
資本剰余金	45,435	45,435
利益剰余金	<u>53,483</u>	<u>51,278</u>
自己株式	<u>△2,143</u>	<u>△330</u>
株主資本合計	<u>138,796</u>	<u>138,404</u>
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△367	891
繰延ヘッジ損益	<u>△152</u>	<u>△77</u>
評価・換算差額等合計	<u>△520</u>	<u>814</u>
少数株主持分	698	769
純資産合計	<u>138,974</u>	<u>139,989</u>
負債純資産合計	<u>333,099</u>	<u>340,970</u>

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	139,442	163,252
売上原価	112,712	133,431
売上総利益	26,729	29,820
販売費及び一般管理費	19,075	23,176
営業利益	7,654	6,644
営業外収益		
受取利息	27	8
受取配当金	565	586
負ののれん償却額	467	1,342
助成金収入	—	972
その他	762	882
営業外収益合計	1,822	3,791
営業外費用		
支払利息	1,257	1,125
その他	1,014	1,422
営業外費用合計	2,271	2,548
経常利益	7,205	7,888
特別利益		
固定資産売却益	11	15
投資有価証券売却益	9	—
貸倒引当金戻入額	4	5
事業構造改善引当金戻入額	92	—
特別利益合計	118	21
特別損失		
固定資産除売却損	277	477
減損損失	84	222
投資有価証券評価損	614	187
関係会社整理損	224	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	388
その他	—	27
特別損失合計	1,201	1,303
税金等調整前四半期純利益	6,121	6,606
法人税、住民税及び事業税	2,174	1,785
法人税等調整額	△537	157
法人税等合計	1,636	1,942
少数株主損益調整前四半期純利益	—	4,663
少数株主利益又は少数株主損失(△)	28	△50
四半期純利益	4,456	4,714

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,121	6,606
減価償却費	15,629	16,858
減損損失	84	222
負ののれん償却額	△467	△1,342
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	254	173
受取利息及び受取配当金	△592	△594
投資有価証券評価損益 (△は益)	614	187
支払利息	1,257	1,125
固定資産除売却損益 (△は益)	266	461
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	388
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,591	△1,596
たな卸資産の増減額 (△は増加)	3,862	△684
未収消費税等の増減額 (△は増加)	2,686	139
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,308	2,063
未払消費税等の増減額 (△は減少)	1,456	△2,175
その他	△241	△1,139
小計	27,031	20,694
利息及び配当金の受取額	604	607
利息の支払額	△1,280	△1,110
法人税等の支払額	△3,080	△2,474
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,274	17,716
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△77	△18
定期預金の払戻による収入	45	85
投資有価証券の取得による支出	△233	△12
投資有価証券の売却及び償還による収入	999	2
有形固定資産の取得による支出	△5,376	△5,505
有形固定資産の売却による収入	88	34
貸付けによる支出	△5,059	△20
貸付金の回収による収入	310	137
その他	332	487
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,970	△4,809

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	6,458	△1,726
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	13,000	△3,000
長期借入れによる収入	200	—
長期借入金の返済による支出	△8,460	△8,379
社債の発行による収入	—	10,000
社債の償還による支出	△10,000	—
配当金の支払額	△2,553	△2,513
少数株主への配当金の支払額	△12	△8
自己株式の取得による支出	△8,829	△1,810
その他	△298	△695
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>△10,496</u>	<u>△8,133</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13	△158
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,794	4,614
現金及び現金同等物の期首残高	15,204	11,668
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,044	—
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	20
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u>20,043</u>	<u>16,302</u>

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

（単位：百万円）

	パルプ・紙 製造事業	紙加工品 製造事業	その他の 事業	計	消 去 又は全社	連 結
売 上 高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	120,609	14,573	4,259	139,442	—	139,442
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,183	83	16,448	17,715	(17,715)	—
計	121,792	14,657	20,708	157,158	(17,715)	139,442
営 業 利 益	6,373	335	392	7,101	553	7,654

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品の製造方法の類似性等を考慮して区分しております。

2. 各事業の主な事業

パルプ・紙製造事業	・・・・・・・・	パルプ・紙の製造販売
紙加工品製造事業	・・・・・・・・	紙加工品の製造販売
その他の事業	・・・・・・・・	木材事業、建設業、機械製造・販売・営繕、パルプ等諸資材の 輸入・販売、不動産売買、運送・倉庫業、古紙卸業、サービス、 その他

3. 当社は、平成21年10月1日付けで紀州製紙株式会社との株式交換により、紀州製紙株式会社及びその子会社を連結子会社といたしました。これにより、事業の種類別セグメント情報に係るセグメント別の資産の金額は、前連結会計年度末に比べて、主としてパルプ・紙製造事業及び紙加工品製造事業において増加しております。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、当社及び連結子会社ごとに業績評価等を行っているため、これを事業セグメントの構成単位としております。また各事業セグメントの経済的特徴、製品の製造方法及び販売市場の類似性等を考慮したうえでセグメントを集約しており、当社は「紙パルプ事業」、「パッケージング・紙加工事業」の2つを報告セグメントとしております。

「紙パルプ事業」セグメントは、紙・パルプ製品の製造販売を行っております。「パッケージング・紙加工事業」は、紙器・液体容器等の製造販売、ビジネスフォーム等の各種印刷製品の製造販売、DPS(データプロセッシングサービス)事業等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙パルプ 事業	パッケー ジング・ 紙加工事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	139,476	16,571	156,048	7,204	163,252	-	163,252
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,446	242	1,688	18,264	19,952	△ 19,952	-
計	140,922	16,813	157,736	<u>25,469</u>	183,205	△ 19,952	163,252
セグメント利益	5,127	420	5,548	<u>468</u>	<u>6,016</u>	628	6,644

(注) 1 「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、木材事業、建設業、諸資材の販売、不動産売買、運送・倉庫業、古紙卸業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額628百万円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。